

まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構顧問 原田雄一郎



29

近年、巻網漁業による漁獲量は、その漁獲能力の増加に伴って、急速に増加を続け、今や、世界のカツオ・マグロ類の漁獲量の60%を超える水準に達している。(中西部太平洋での巻網漁獲量は、1991年99万3000トンが、2011年には154万3000トンへ

ADS)を使った巻網漁法の資源に与える影響は大きく、FADSの声が高まってから久

定で、建造を始めた。これているのは、周知の事

大型巻網の増加に歯止めなるか

来年に期待、一歩前進のWCPFC

— 中西部太平洋まぐろ類委員会・WCPFCデータ(集魚装置)F

規制の強化も資源管理の抱える大きな課題となっている。

遅々として進まない。先進国の大型巻網漁船の隻数を現状に凍結する国際合意もあったが、具体的な措置として実行されることは無く、むしろ、巻網漁船の建造は、更に増加し

の2隻は次世代型の経済効率を高められた船で、インド洋、太平洋で操業を予定している。この例にあるように、今や、他の国の造船所も、巻網漁船の建造をビジネスの好機と見て、参入に意欲を燃やしている。

「来年の年次会合まで、」

「来年の年次会合まで、」

◆進まない過剰漁獲対策◆

マグロ資源を持続的に利用するためには、巻網漁船の過剰な漁獲

の建造は、更に増加し

の2隻は次世代型の経済効率を高められた船で、

「来年の年次会合まで、」

「来年の年次会合まで、」



多。 続けていくとの情報も 多くの。 まぐろ漁業開発プロジェクトにも取り組んでいる。 計画は、5億米ドルを資金とし、300万ドルの水揚げ埠頭とマグロ加工工場を建設する。

◆抑制困難な途上国の建造◆

最近入手した情報では、ベトナムのピリウ造船所が2隻の大型巻網漁船を、2015年

は、ベトナムのピリウ造船所は、今後、毎年4隻の新型巻網漁船の建造を見込んでい

早々にフランスの大手漁業会社に引き渡す予定で、建造を始めた。これているのは、周知の事

増隻の流れを止めることはできないだろう。

◆鍵握る先進国の姿勢◆

そんな状況の中で、12月6日に終了した中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)の年次会合は、注目値する決議を採択した。

「来年の年次会合まで、」

「来年の年次会合まで、」

「来年の年次会合まで、」

(毎月1回掲載)